

Ⅱ 家庭生活

1 家庭における役割

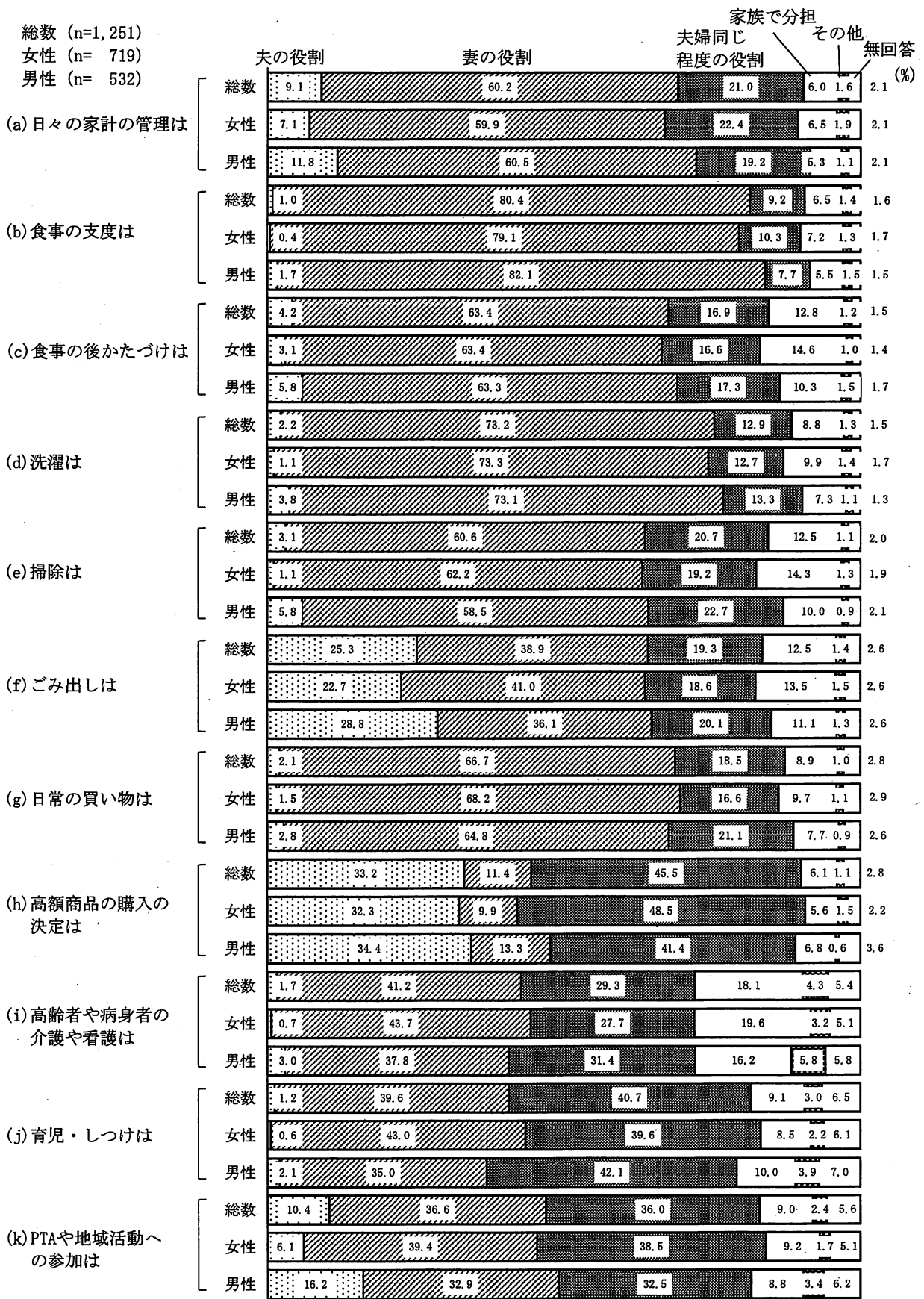
問2 次にあげる(a)～(k)の家庭の仕事は誰の役割だと思いますか。あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。配偶者のいない方もお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

家庭の仕事は誰の役割だと思うかについて、『妻の役割』と回答した割合が多いのは、“(b)食事の支度”(女性79.1%、男性82.1%)、次いで“(d)洗濯”(女性73.3%、男性73.1%)、“(g)日常の買い物”(女性68.2%、男性64.8%)の順となった。

「夫婦同じ程度の役割」の割合が高いのは、“(h)高額商品の購入の決定”(女性48.5%、男性41.4%)、“(j)育児・しつけ”(女性39.6%、男性42.1%)、“(k)PTAや地域活動への参加”(女性38.5%、男性32.5%)の順となっている。

※『夫の役割』は、調査票選択肢の「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」を合計したもの。
『妻の役割』は、調査票選択肢の「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」を合計したもの。
以降の頁も同様。

図2-1 家庭における役割 項目別一覧 (性別)



家庭における役割

(a) 日々の家計の管理は

【性別】

『夫の役割』は男性の方が4.7ポイント多く、「夫婦同じ程度の役割」は女性の方が3.2ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は、能登中部（48.1%）を除いて6割を超えている。「夫婦同じ程度の役割」は、能登中部（32.1%）で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は、石川中央（62.7%）で最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」は、能登北部（23.3%）で最も多くなっている。

【年代別】

女性では、『夫の役割』はいずれの年代でも1割未満となった。「夫婦同じ程度の役割」は30代（28.0%）で最も多くなった。

男性では、『夫の役割』は60歳以上（15.9%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は、50代（30.1%）で最も多くなった。

【ライフステージ別】

女性の場合、『妻の役割』は、家族成長後期（66.0%）で最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」は独身期（34.0%）で最も多くなっている。

男性の場合、『妻の役割』は、家族成長中期（67.9%）で最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」は家庭成長後期（35.5%）で最も多くなっている。

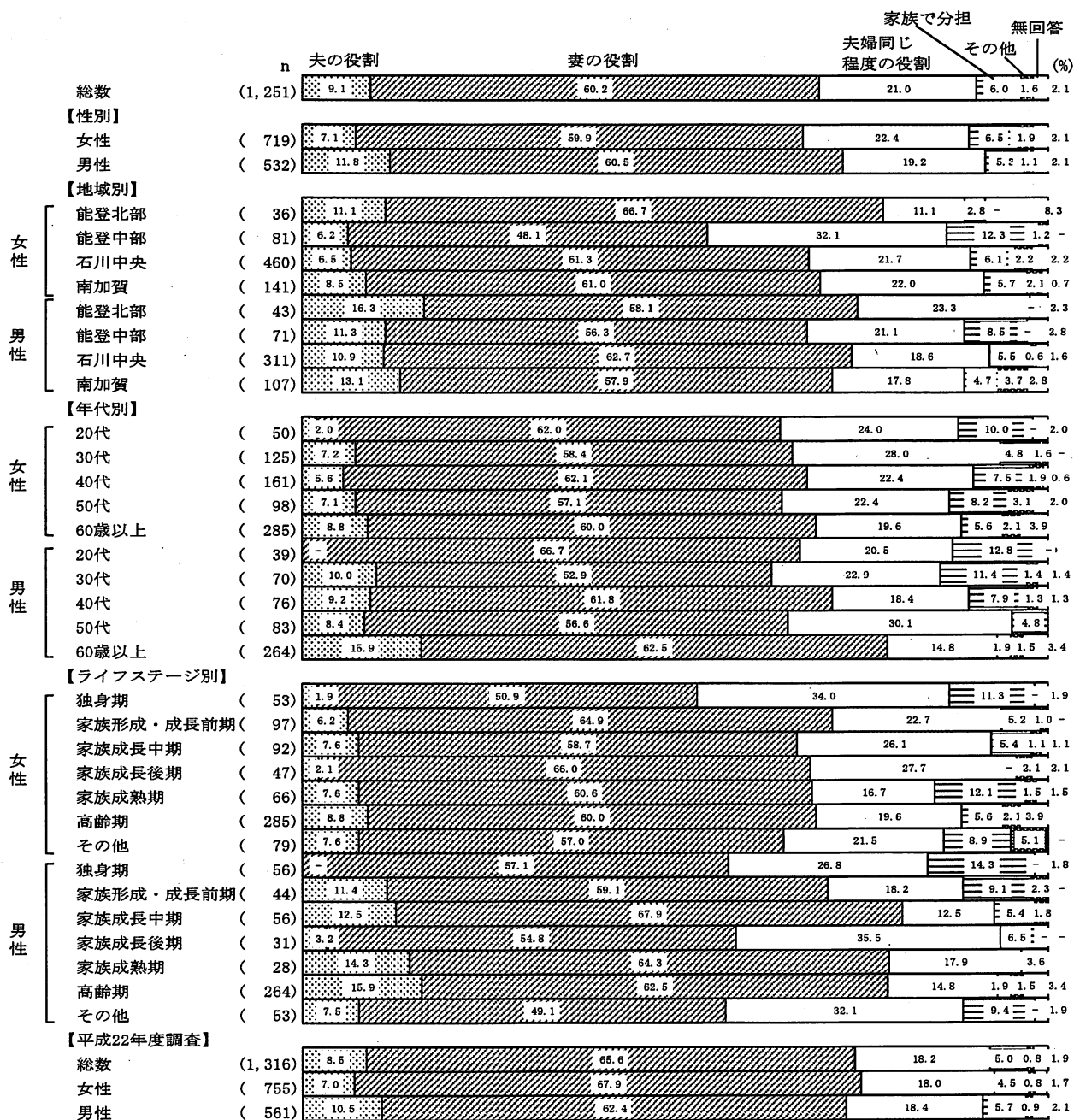
【平成22年度調査との比較】

女性において、『妻の役割』が8ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」は4.4ポイント増加した。

男性において、『妻の役割』が1.9ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」は0.8ポイント増加した。

図2-2 家庭における役割 (a) 日々の家計の管理は

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成22年度調査結果)



家庭における役割

(b) 食事の支度は

【性別】

『妻の役割』は男性の方が3ポイント多く、「夫婦同じ程度の役割」は女性の方が2.6ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は南加賀(83.7%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は能登中部(12.3%)で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は南加賀(74.8%)で最も少なく、「夫婦同じ程度の役割」は能登中部(9.9%)で最も多くなっている。

【年代別】

女性では、『妻の役割』は60歳以上(83.5%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は20代(18.0%)で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は60歳以上(85.2%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は20代(12.8%)で最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は独身期(56.6%)で最も少なく、「夫婦同じ程度の役割」は独身期(26.4%)で最も多い。

男性では、『妻の役割』は独身期(67.9%)で最も少なく、「夫婦同じ程度の役割」はその他(15.1%)に続き、独身期(14.3%)で多くなっている。

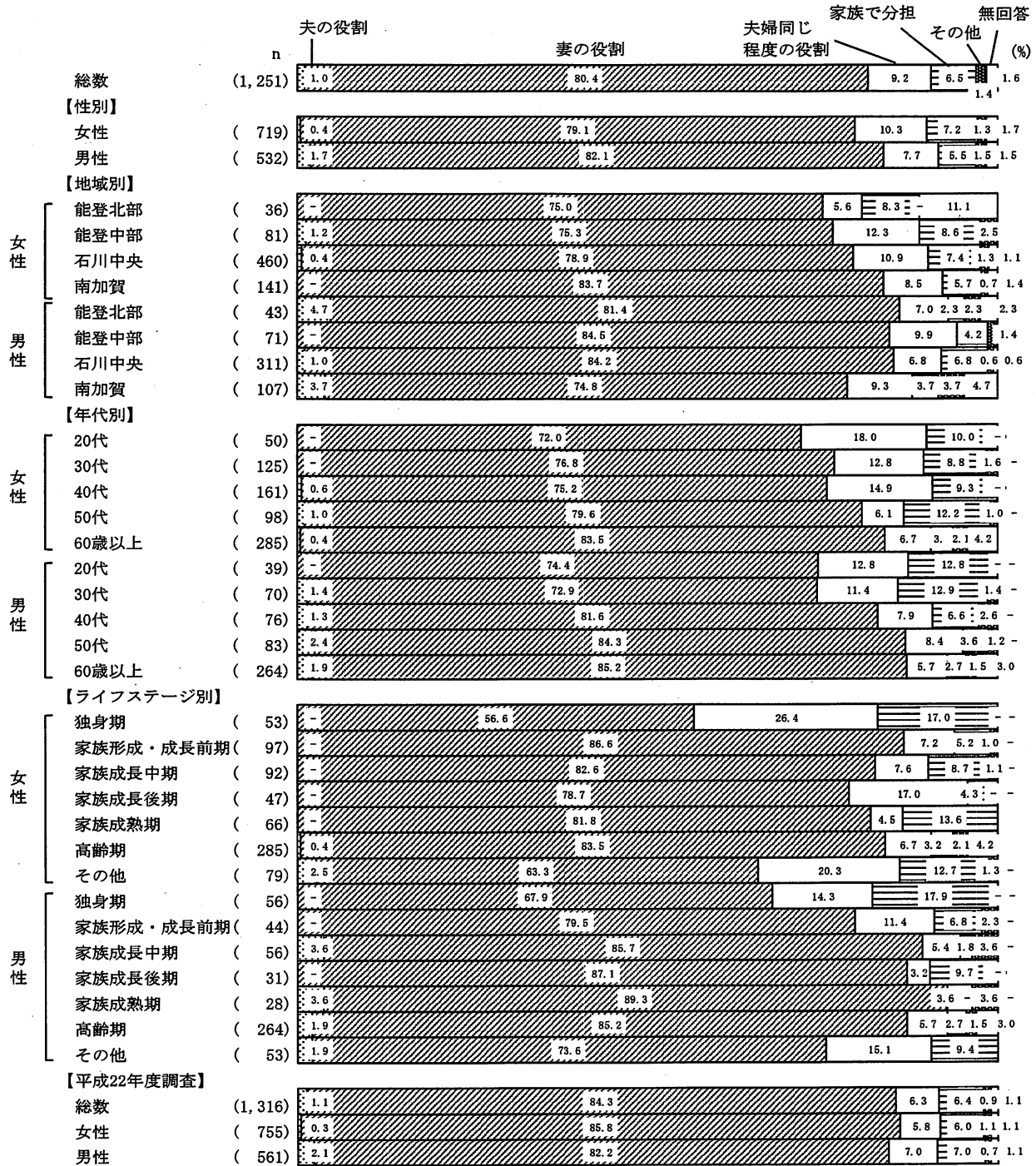
【平成22年度調査との比較】

女性において、『妻の役割』が6.7ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」は4.5ポイント増加した。

男性においては、『妻の役割』が0.1ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」は0.7ポイント増加した。

図2-3 家庭における役割 (b) 食事の支度は

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成22年度調査結果)



家庭における役割

(c) 食後の後かたづけは

【性別】

『夫の役割』は男性の方が2.7ポイント多く、「夫婦同じ程度の役割」は0.6ポイント男性の方が多くなっている。

【地域別】

女性では、『夫の役割』は能登北部(5.6%)が最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は南加賀(17.0%)が最も多くなっている。

男性では、『夫の役割』は能登北部(14.0%)が最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は石川中央(18.6%)が最も多くなっている。

【年代別】

女性では、『妻の役割』は60歳以上(71.2%)で最も多く、年代とともに多くなる傾向にある。「夫婦同じ程度の役割」は20代(36.0%)で最も多くなった。

男性では、『妻の役割』は60歳以上(71.2%)で最も多く、年代とともに多くなる傾向にある。「夫婦同じ程度の役割」は30代(25.7%)で最も多くなった。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は独身期(37.7%)で最も少なく、「夫婦同じ程度の役割」は独身期(39.6%)で最も多くなった。

男性では、『妻の役割』はその他(39.6%)に続いて、独身期(41.1%)の順に少なく、「夫婦同じ程度の役割」はその他(35.5%)に続いて、独身期(25.0%)と家族形成・成長前期(25.0%)の順で多くなっている。

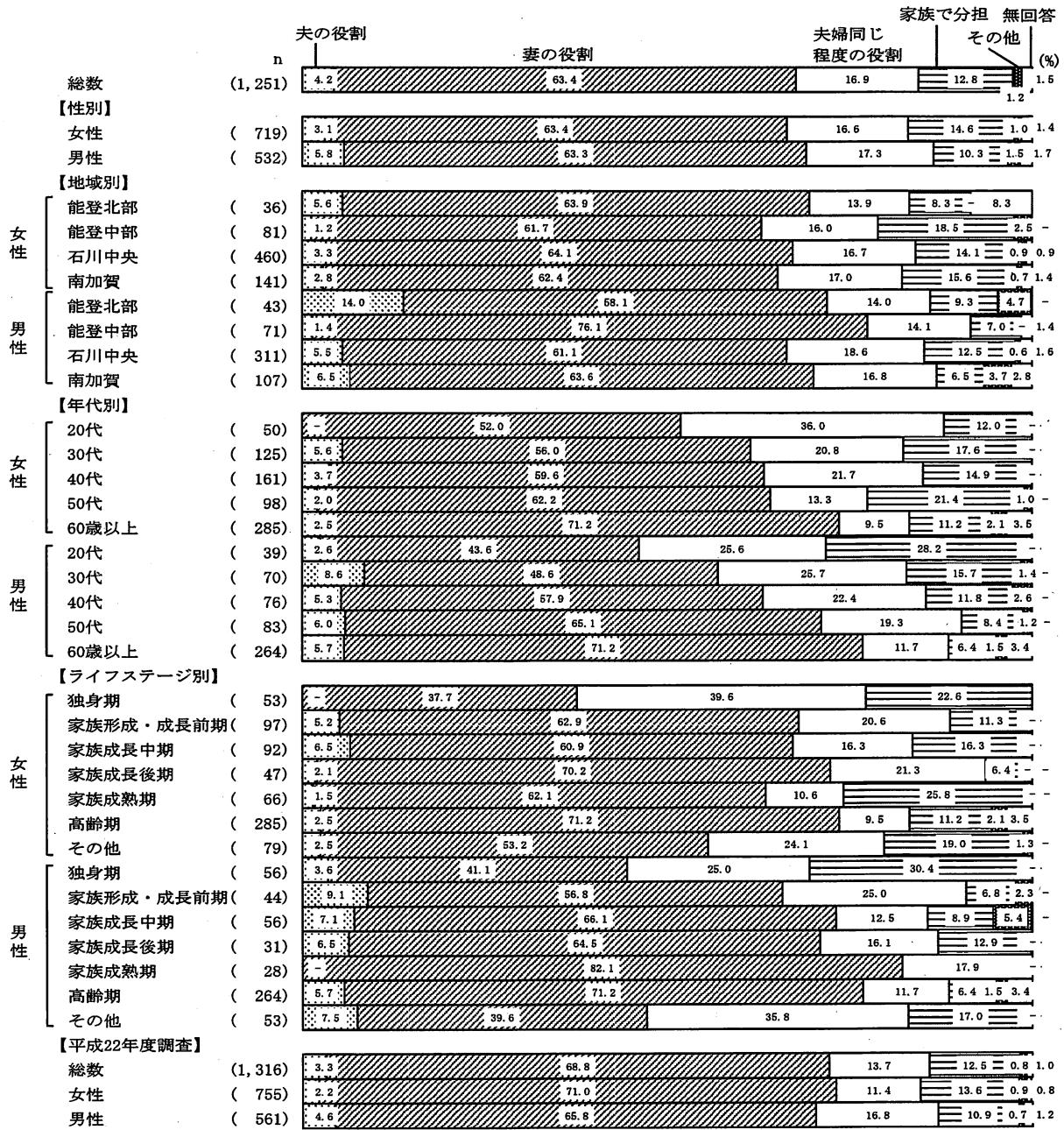
【平成22年度調査との比較】

女性において、『妻の役割』が7.6ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」は5.2ポイント増加した。

男性において、『妻の役割』が2.5ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」は0.5ポイント増加した。

図2-4 家庭における役割 (c) 食後の後かたづけは

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成22年度調査結果)



家庭における役割

(d) 洗濯は

【性別】

『夫の役割』は男性の方が2.7ポイント多く、「夫婦同じ程度の役割」は0.6ポイント男性の方が多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は南加賀(77.3%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は石川中央(13.9%)で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は能登北部(83.7%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は石川中央(16.4%)で最も多くなっている。

【年代別】

女性では、『妻の役割』は60歳以上(81.1%)で最も多く、年代とともに多くなる傾向にある。「夫婦同じ程度の役割」は20代(24.0%)で最も多く、年代とともに減少する傾向にある。

男性では、『妻の役割』は60歳以上(79.2%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は50代(19.3%)で最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は高齢期(81.1%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は独身期(26.4%)で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は家族成熟期(89.3%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」はその他(22.6%)に続いて、家族成長中期(21.4%)が多くなっている。

【平成22年度調査との比較】

女性において、『妻の役割』が7.2ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」は2.8ポイント増加した。

男性においても、『妻の役割』が2.3ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」は0.8ポイント増加した。

家庭における役割

(e) 排除は

【性別】

『妻の役割』は女性の方が3.7ポイント多く、「夫婦同じ程度の役割」は男性の方が3.5ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』が南加賀(64.5%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」が能登中部(21.0%)で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は能登中部(66.2%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は能登中部(23.9%)で最も多くなっている。

【年代別】

女性では、『妻の役割』は60歳以上(67.0%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は20代(38.0%)で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は60歳以上(65.9%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は30代(34.3%)で最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』が高齢期(67.0%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は独身期(37.7%)で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』が家族成熟期(85.7%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長前期(36.4%)で最も多くなっている。また独身期では『妻の役割』(32.1%)よりも「夫婦同じ程度の役割」(33.9%)が多くなっている。

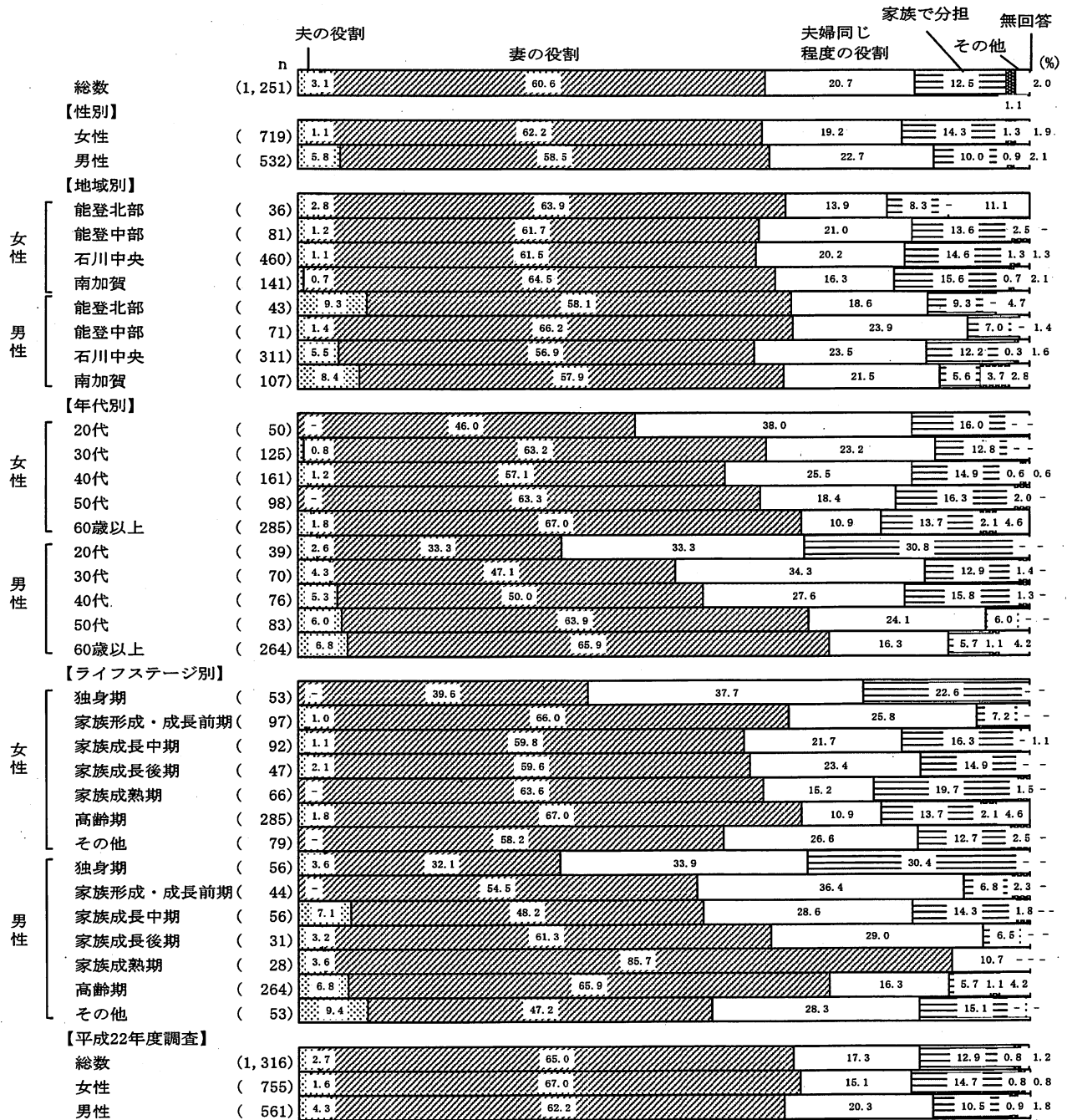
【平成22年度調査との比較】

女性では、『妻の役割』は、4.8ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」は、4.1ポイント増加した。

男性では、『妻の役割』は、3.7ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」は、2.4ポイント増加した。

図2-6 家庭における役割 (e) 掃除は

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成22年度調査結果)



家庭における役割

(f) ごみ出しは

【性別】

『夫の役割』は男性の方が6.1ポイント多く、『妻の役割』は女性の方が4.9ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、『夫の役割』は能登北部（30.6%）で最も多く、『妻の役割』は能登中部（44.4%）で最も多くなっている。

男性では、『夫の役割』は南加賀（34.6%）で最も多く、『妻の役割』は石川中央（38.3%）で最も多くなっている。「夫婦同程度の役割」は能登中部（31.0%）が最も多くなっている。

【年代別】

女性では、『夫の役割』は30代（34.4%）で最も多くなっている。『妻の役割』は60歳以上（48.4%）が最も多く、年代とともに多くなる傾向にある。「夫婦同じ程度の役割」は20代（32.0%）で『夫の役割』『妻の役割』よりも多くなっている。

男性では、『夫の役割』は40代（40.8%）で最も多く、『妻の役割』は60歳以上（41.7%）で最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」は20代（33.3%）で、『夫の役割』『妻の役割』よりも多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『夫の役割』は家族形成・成長前期（42.3%）で最も多く、『妻の役割』は家族成長後期（51.1%）で最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」は独身期（45.3%）で最も多く、『夫の役割』『妻の役割』よりも多くなっている。

男性では、『夫の役割』は家族成長中期（39.3%）で最も多く、『妻の役割』は家族成熟期（57.1%）で最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」は独身期（33.9%）で最も多く、『夫の役割』『妻の役割』よりも多くなっている。

【平成22年度調査との比較】

女性では、『夫の役割』は、5ポイント、『妻の役割』は5.1ポイント減少した。

男性では、『夫の役割』は2.2ポイント増加し、『妻の役割』は、1.9ポイント減少した。

家庭における役割

(g) 日常の買い物は

【性別】

『妻の役割』は女性の方が3.4ポイント多く、「夫婦同じ程度の役割」は男性の方が4.5ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は南加賀(73.0%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は能登中部(22.2%)で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は南加賀(68.2%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は石川中央(24.1%)が最も多くなっている。

【年代別】

女性では、『妻の役割』は50代(71.4%)が最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は20代(22.0%)が最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は40代(73.7%)が最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は20代(33.3%)が最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は家族成熟期(77.3%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は独身期(28.3%)で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は家族成長後期(87.1%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は独身期(35.7%)が最も多くなっている。

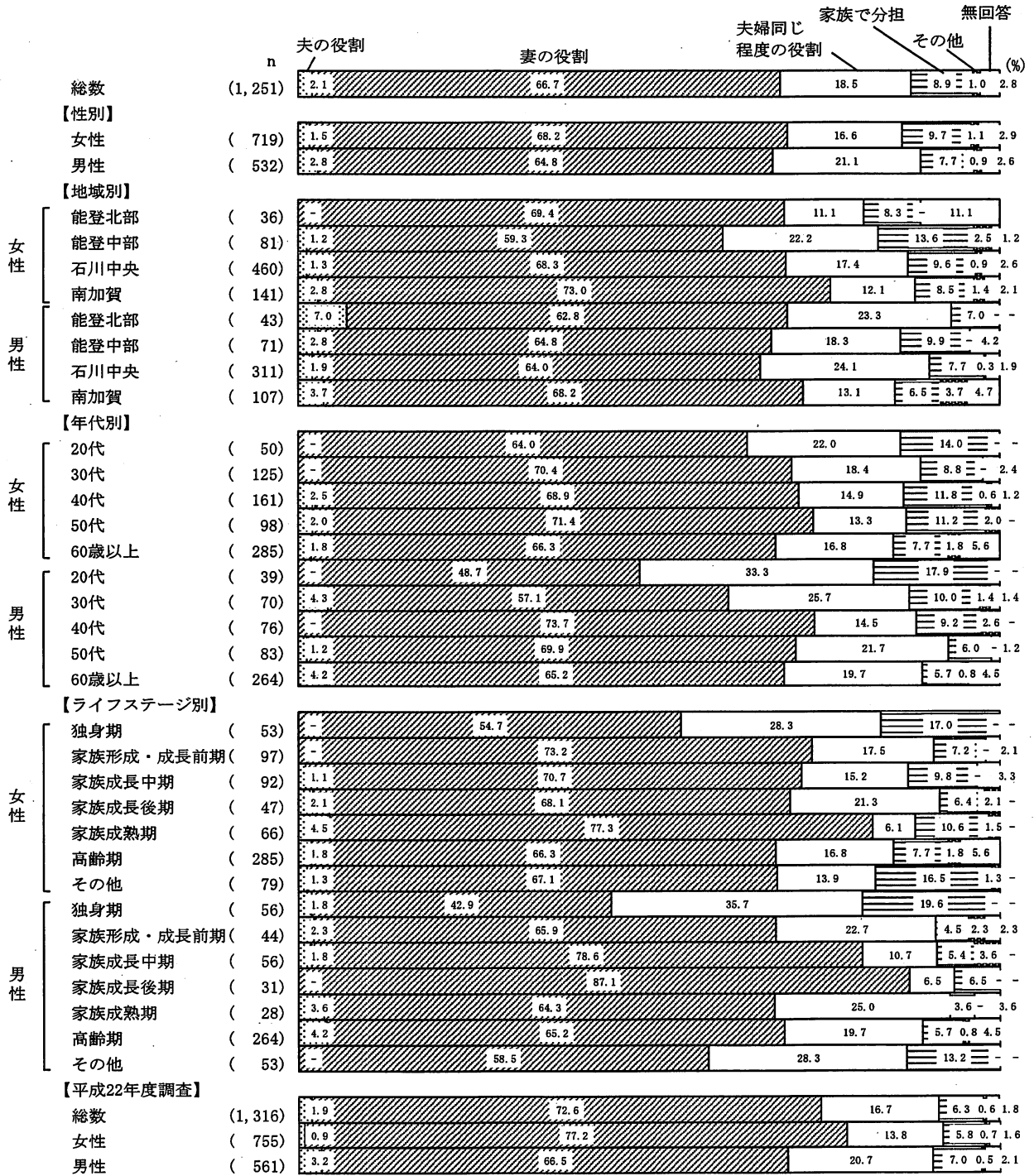
【平成22年度調査との比較】

女性では、『妻の役割』が9ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」が2.8ポイント増加した。

男性では、『妻の役割』が1.7ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」が0.4ポイント増加した。

図2-8 家庭における役割 (g) 日常の買い物は

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成22年度調査結果)



家庭における役割

(h) 高額商品の購入の決定は

【性別】

「夫婦同じ程度の役割」は女性の方が7.1ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、『夫の役割』は南加賀（36.2%）で最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」についても南加賀（49.6%）で最も多くなっている。

男性では、『夫の役割』は能登北部（44.2%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」では能登中部（46.5%）で最も多くなっている。

【年代別】

女性では、『夫の役割』は50代（38.8%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は20代から40代で5割以上となっている。

男性では、『夫の役割』は60歳以上（38.3%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は20代（48.7%）で最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『夫の役割』は家族成長後期（44.7%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は、独身期（56.5%）で最も多くなっている。

男性では、『夫の役割』は家族成長中期（42.9%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は、その他（50.9%）に続いて独身期（46.4%）が最も多くなっている。

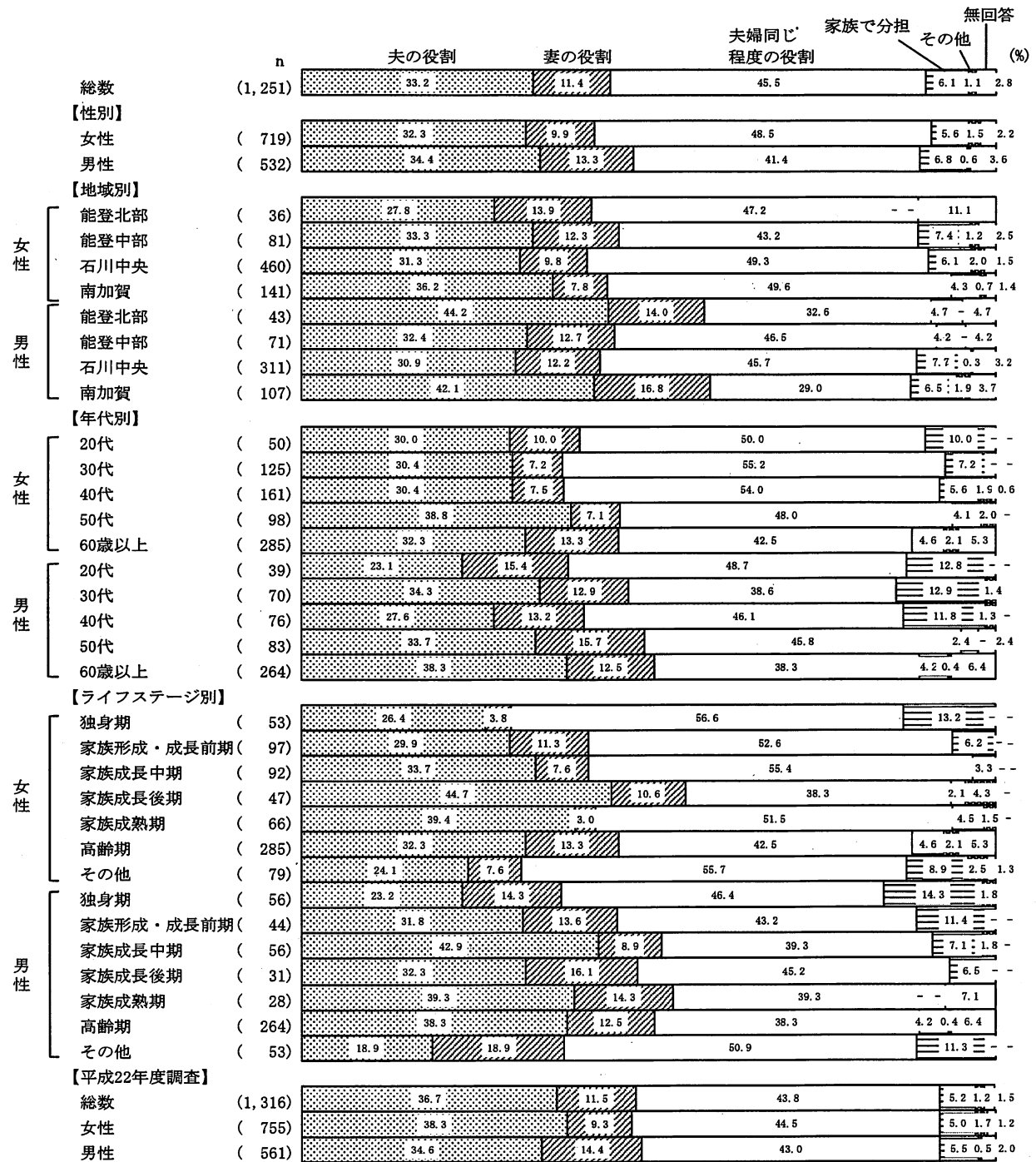
【平成22年度調査との比較】

女性では、『夫の役割』が6ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」が4ポイント増加した。

男性では、『妻の役割』が1.1ポイント増加し、「夫婦同じ程度の役割」が1.6ポイント増加した。

図2-9 家庭における役割 (h) 高額商品の購入の決定は

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成22年度調査結果)



家庭における役割

(i) 高齢者や病身者の介護や看護は

【性別】

『妻の役割』は女性の方が5.9ポイント多く、「夫婦同じ程度の役割」は男性の方が3.7ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は能登北部(47.2%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は石川中央(30.2%)で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は能登北部(48.8%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は石川中央(34.7%)で最も多くなっている。

【年代別】

女性では、『妻の役割』は60歳以上(48.8%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は20代(42.0%)が最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は50代(48.2%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は40代(39.5%)が最も多くなっている。20代では「夫婦同じ程度の役割」と「家族で分担」がともに38.5%となり、『夫の役割』『妻の役割』よりも多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は高齢期(48.8%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は独身期(41.5%)が最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は家族成熟期(64.3%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は家族成長中期(42.9%)が最も多くなっている。独身期では、「夫婦同じ程度の役割」と「家族で分担」がともに37.5%となり、『夫の役割』『妻の役割』よりも多くなっている。

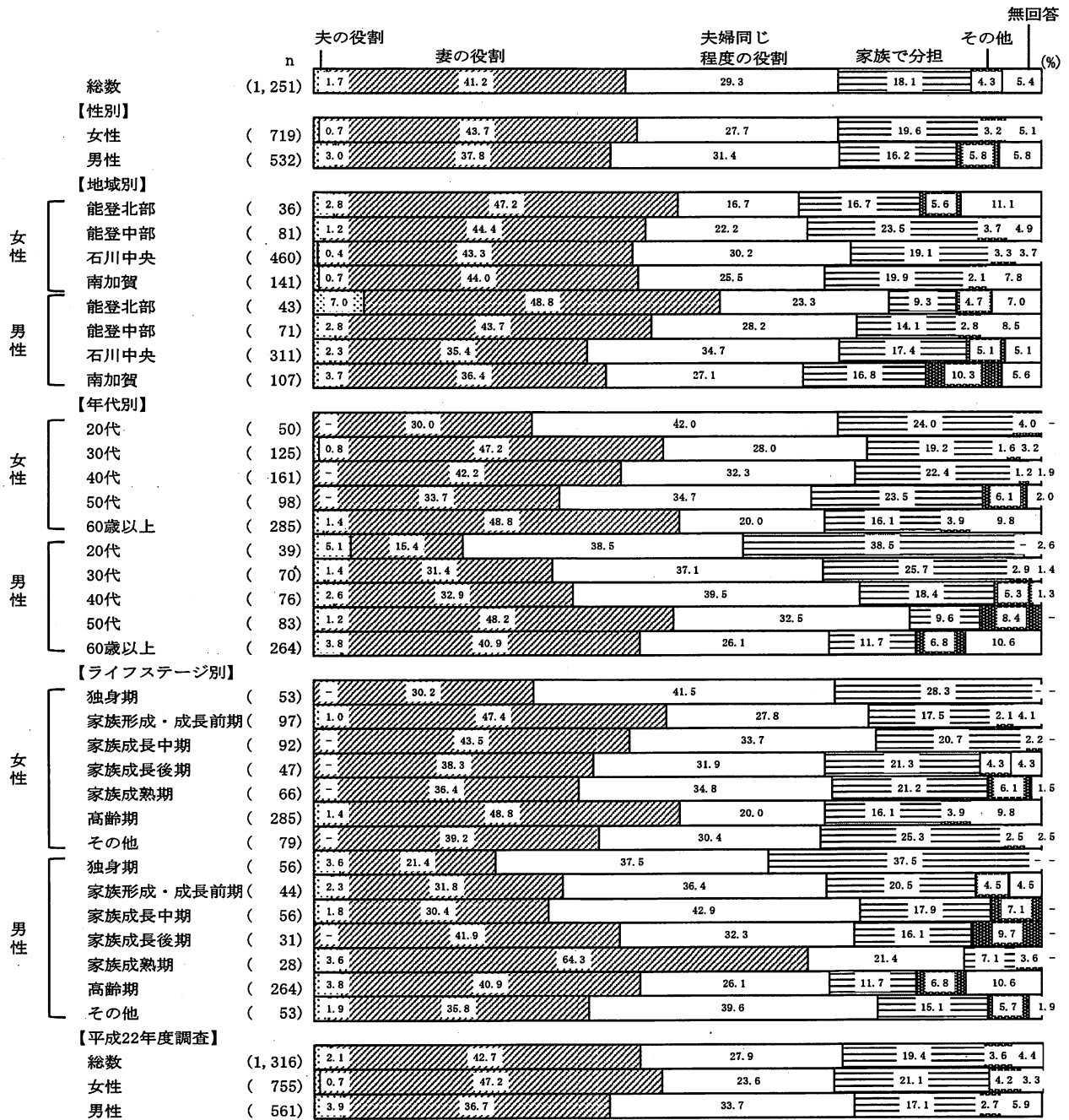
【平成22年度調査との比較】

女性では、『妻の役割』が3.5ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」が4.1ポイント増加した。

男性では、『妻の役割』が1.1ポイント増加し、「夫婦同じ程度の役割」が2.3ポイント減少した。

図2-10 家庭における役割 (i) 高齢者や病身者の介護や看護は

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成22年度調査結果)



家庭における役割

(j) 育児・しつけは

【性別】

『妻の役割』は女性の方が8ポイント多く、「夫婦同じ程度の役割」は男性の方が2.5ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は能登中部(44.4%)が最も多く、「夫婦同じ程度の役割」では南加賀(44.7%)が最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は南加賀(40.2%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」では石川中央(46.0%)が最も多くなっている。

【年代別】

女性では、『妻の役割』は30代(49.6%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は40代(54.7%)が最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は50代(44.6%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は20代(59.0%)で最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は家族成熟期(53.0%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は家族成長中期(50.0%)が最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は家族成熟期(46.4%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長前期(61.4%)が最も多くなっている。

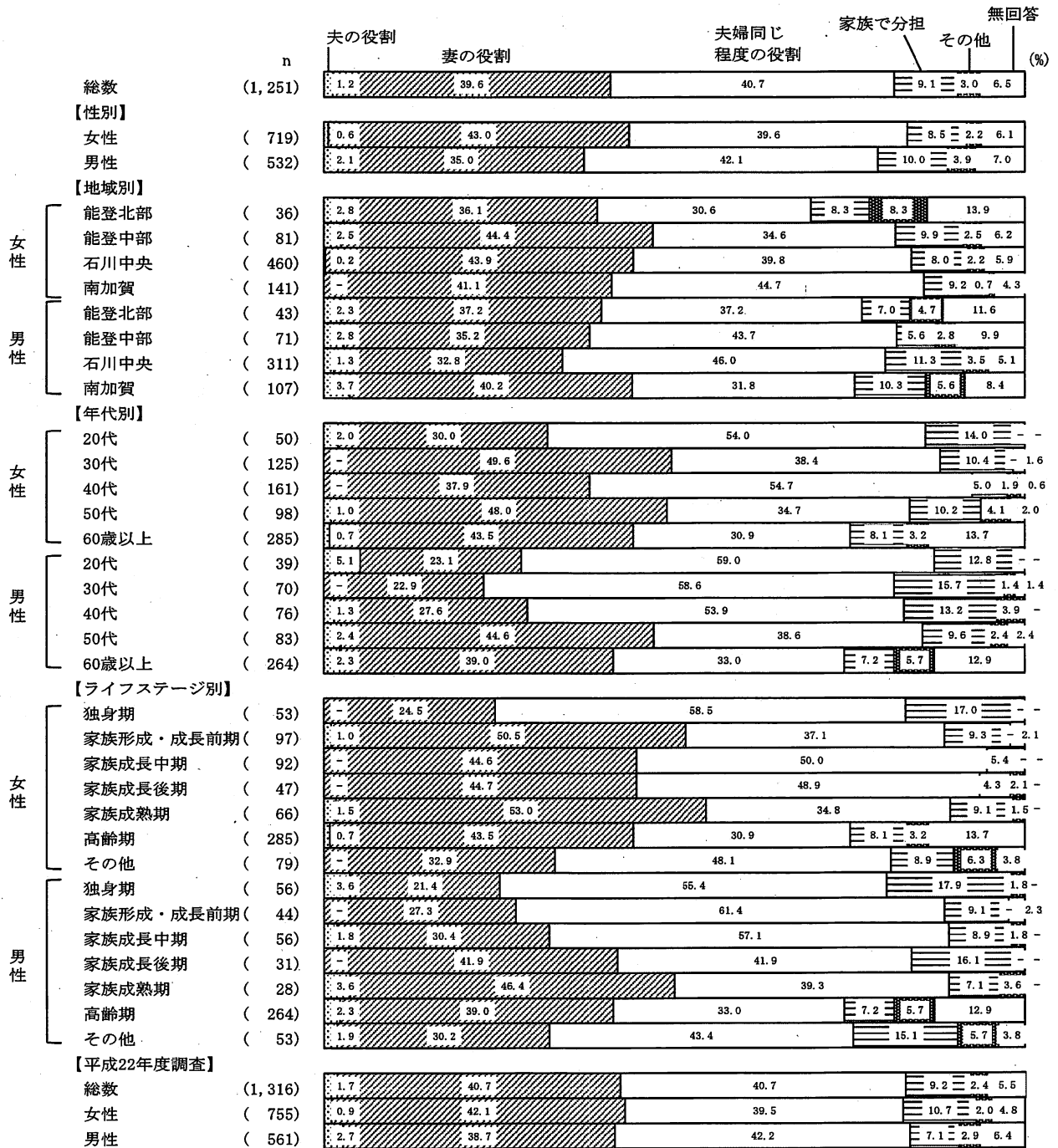
【平成22年度調査との比較】

女性では、『妻の役割』は0.9ポイント増加した。

男性では、『妻の役割』は3.7ポイント減少した。

図2-11 家庭における役割 (j) 育児・しつけは

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成22年度調査結果)



家庭における役割

(k) P T Aや地域活動への参加は

【性別】

『夫の役割』は男性の方が10.1ポイント多く、『妻の役割』は女性の方が6.5ポイント多い。「夫婦同じ程度の役割」は女性の方が6ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、『夫の役割』は南加賀（12.1%）で最も多く、『妻の役割』は石川中央（43.9%）で最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」では能登北部（47.2%）が最も多い。

男性では、『夫の役割』は南加賀（23.4%）で最も多く、『妻の役割』は能登北部（37.2%）が、「夫婦同じ程度の役割」は石川中央（34.4%）が最も多くなっている。

【年代別】

女性では、『妻の役割』は20代（18.0%）で最も低く、「夫婦同じ程度の役割」は20代（66.0%）が最も多くなっている。

男性では、『夫の役割』は60歳以上（21.2%）で最も多く、『妻の役割』は50代（43.4%）で、「夫婦同じ程度の役割」は20代（43.6%）が最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は独身期（17.0%）で最も少なく、「夫婦同じ程度の役割」はその他（46.8%）に続いて家族成長後期（44.7%）が最も少なくなっている。

男性では、『妻の役割』は家族成長中期（42.9%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」では、家族形成・成長前期（43.2%）が最も多くなっている。

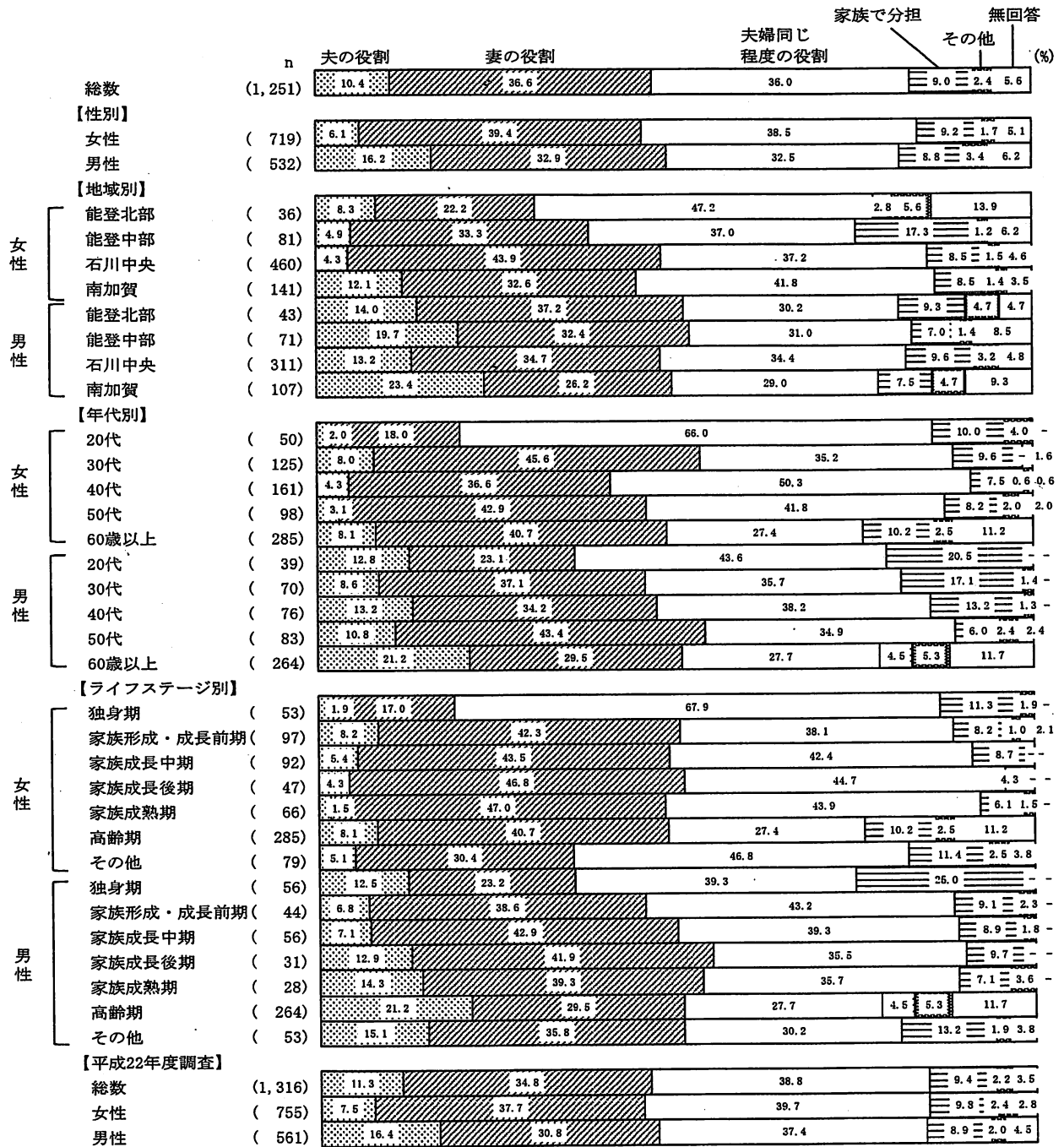
【平成22年度調査との比較】

女性では、『妻の役割』が1.7ポイント増加し、「夫婦同じ程度の役割」が1.2ポイント減少した。

男性では、『妻の役割』が2.1ポイント増加し、「夫婦同じ程度の役割」が4.9ポイント減少した。

図2-12 家庭における役割 (k) PTAや地域活動への参加は

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成22年度調査結果)



2 「男は仕事、女は家庭」という考え方

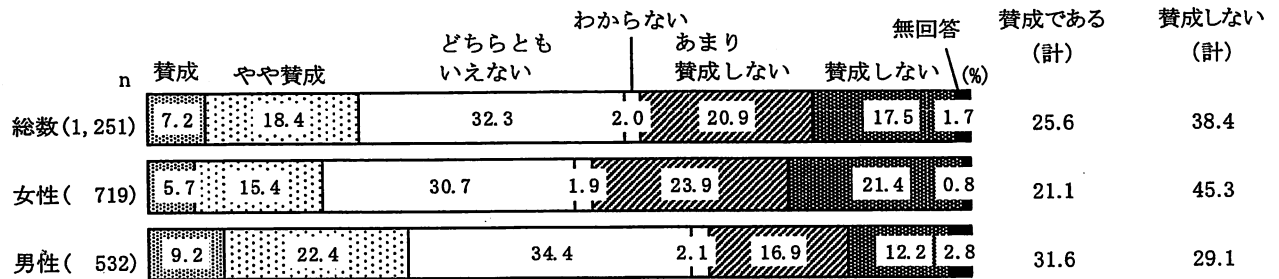
問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(○は1つだけ)

全体では、「賛成」(7.2%)、「やや賛成」(18.4%)で、これらを合わせて『賛成である(計)』は25.6%となっている。一方、「あまり賛成しない」(20.9%)、「賛成しない」(17.5%)を合わせた『賛成しない(計)』は38.4%となり『賛成である(計)』が『賛成しない(計)』を12.8ポイント上回っている。「どちらともいえない」は32.3%となっている。

女性では、『賛成である(計)』は21.1%、『賛成しない(計)』は45.3%となり、『賛成しない(計)』が『賛成である(計)』を24.2ポイント上回った。

男性では、『賛成である(計)』は31.6%、『賛成しない(計)』は29.1%となり、『賛成である(計)』が『賛成しない(計)』を2.5ポイント上回っている。

図3-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方 (性別)



※『賛成である(計)』は調査票選択肢の「賛成」と「やや賛成」を合計したもの。

『賛成しない(計)』は調査票選択肢の「賛成しない」と「あまり賛成しない」を合計したもの。

以降の頁も同様。

「男は仕事、女は家庭」という考え方

【性別】

『賛成である（計）』は男性の方が10.5ポイント多く、『賛成しない（計）』は女性の方が16.2ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、能登中部で『賛成しない（計）』（49.4%）が『賛成である（計）』（14.8%）を34.6ポイント上回り、最も差が大きい。能登北部では『賛成しない（計）』（36.1%）と『賛成である（計）』（33.3%）の差が2.8ポイントと最も小さくなっている。

男性では、能登北部と南加賀で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。

【年代別】

女性では、全ての年代で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。『賛成しない（計）』は60歳以上（35.8%）では3割台となり、他の世代では5割以上となっている。

男性では、20～40代で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回り、50代で同率となり、60歳以上では『賛成である（計）』が『賛成しない（計）』を上回っている。

【本人の職業別】

女性では、全ての層で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。『賛成である（計）』は自営業・家事従業（10.5%）で最も少なくなっている。

男性では、勤め人で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回り、自営業・家事従業と無職では『賛成である（計）』が『賛成しない（計）』を上回っている。

【共働きの有無別】

女性では、共働きの場合は、『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を37.6ポイント上回り、共働きでない場合は、3.5ポイント差となっている。

男性では、共働きの場合は、『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回り、共働きでない場合は、『賛成である（計）』が『賛成しない（計）』を10.4ポイント上回っている。

【平成22年度調査との比較】

女性では、『賛成である（計）』は8.3ポイント減少し、『賛成しない（計）』は8.6ポイント増加した。

男性では、『賛成である（計）』は5.1ポイント減少し、『賛成しない（計）』は1.1ポイント減少した。

図3-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方

(性別、地域別、年代別、本人の職業別、共働きの有無別、平成22年度調査結果)

	n	賛成							賛成である (計)	賛成しない (計)
		賛成	やや賛成	どちらとも いえない	わからない	あまり 賛成しない	賛成 しない	無回答		
総数	(1,251)	7.2	18.4	32.3	2.0	20.9	17.5	1.7	25.6	38.4
【性別】										
女性	(719)	5.7	15.4	30.7	1.9	23.9	21.4	0.8	21.1	45.3
男性	(532)	9.2	22.4	34.4	2.1	16.9	12.2	2.8	31.6	29.1
【地域別】										
女性										
能登北部	(36)	13.9	19.4	25.0	5.6	30.6	5.6		33.3	36.1
能登中部	(81)	3.7	11.1	35.8	0.0	29.6	19.8		14.8	49.4
石川中央	(460)	6.1	14.6	31.3	2.0	21.1	23.9	1.1	20.7	45.0
南加賀	(141)	3.5	19.9	27.7	2.1	28.4	18.4		23.4	46.8
男性										
能登北部	(43)	4.7	16.3	32.6	4.7	18.6	20.9	2.3	20.9	39.5
能登中部	(71)	9.9	25.4	33.8	1.4	15.5	12.7	1.4	35.2	28.2
石川中央	(311)	9.3	23.2	35.4	1.9	15.1	11.6	3.5	32.5	26.7
南加賀	(107)	10.3	20.6	32.7	1.9	22.4	10.3	1.9	30.8	32.7
【年代別】										
女性										
20代	(50)	12.0	12.0	22.0	2.0	28.0	24.0		24.0	52.0
30代	(125)	4.8	17.6	23.2	2.4	25.6	24.8	1.6	22.4	50.4
40代	(161)	3.1	11.8	31.7	0.6	25.5	27.3		14.9	52.8
50代	(98)	1.0	11.2	35.7	1.0	24.5	26.5		12.2	51.0
60歳以上	(285)	8.1	18.6	33.3	2.8	21.4	14.4	1.4	26.7	35.8
男性										
20代	(39)	5.1	12.8	35.9		15.4	28.2	2.6	17.9	43.6
30代	(70)	7.1	15.7	38.6	1.4	18.6	17.1	1.4	22.9	35.7
40代	(76)	6.6	19.7	42.1	2.6	18.4	10.5		26.3	28.9
50代	(83)	6.0	25.3	32.5	2.4	20.5	10.8	2.4	31.3	31.3
60歳以上	(264)	12.1	25.4	31.4	2.3	15.2	9.5	4.2	37.5	24.6
【本人の職業別】										
女性										
勤め人	(343)	3.8	12.2	25.9	1.5	28.0	27.7	0.9	16.0	55.7
自営業・家族従業	(57)	3.5	7.0	36.8	3.5	21.1	26.3	1.8	10.5	47.4
無職	(281)	7.8	21.7	35.6	1.8	19.9	12.8	0.4	29.5	32.7
男性										
勤め人	(282)	6.4	22.7	36.9	1.1	16.0	14.5	2.5	29.1	30.5
自営業・家族従業	(77)	13.0	23.4	31.2	2.6	19.5	6.5	3.9	36.4	26.0
無職	(147)	12.9	21.8	29.9	2.7	18.4	11.6	2.7	34.7	29.9
【共働きの有無】										
女性										
共働きである	(266)	2.6	12.4	29.7	1.1	26.7	25.9	1.5	15.0	52.6
共働きでない	(169)	7.7	23.7	32.5	1.2	21.9	13.0		31.4	34.9
男性										
共働きである	(178)	6.7	23.0	36.0	0.6	19.7	11.8	2.2	29.8	31.5
共働きでない	(153)	11.1	24.8	35.3	1.3	15.0	10.5	2.0	35.9	25.5
【平成22年度調査】										
総数	(1,316)	8.1	24.5	31.4	1.7	19.0	14.9	0.5	32.6	33.9
女性	(755)	7.3	22.1	31.8	1.3	20.1	16.6	0.8	29.4	36.7
男性	(561)	9.1	27.6	30.8	2.1	17.5	12.7	0.2	36.7	30.2

【経年比較】

過去の調査結果と比較すると、女性では、『賛成である（計）』は昭和55年から平成17年までは減少してきたが、平成22年は増加に転じた。今回調査では、再び減少となった。平成2年までは、『賛成である（計）』が『賛成しない（計）』を上回っていたが、平成7年以降は『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回り、その差は今回調査で24.2ポイントと最も大きくなった。

男性では、『賛成である（計）』は平成12年以降減少を続け、今回調査では31.6%と最も小さくなった。いずれの調査においても、『賛成である（計）』が『賛成しない（計）』を上回っているが、その差は今回調査で2.5ポイントと最も小さくなった。

【平成26年度内閣府調査との比較】

内閣府が平成26年8月に実施した「女性の活躍推進に関する世論調査」における「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についての意識をたずねた調査結果と傾向を比較する。（但し、内閣府調査は「調査員による個別面接聴取法」で実施していることや、質問文・回答選択肢が異なる等から厳密な比較はできない。）

本県調査における、「男は仕事、女は家庭」という考え方について意識をたずねた結果とは、賛成派が女性より男性に多い点、女性では反対派が賛成派を上回っている点が共通している。

一方、本県調査では男性の賛成派が反対派を上回っているが、内閣府調査では同率となっている点、女性の反対派と賛成派の差が本県調査では24.2ポイントに対し、内閣府調査では8.5ポイントである点が相違している。

図3-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方 経年比較

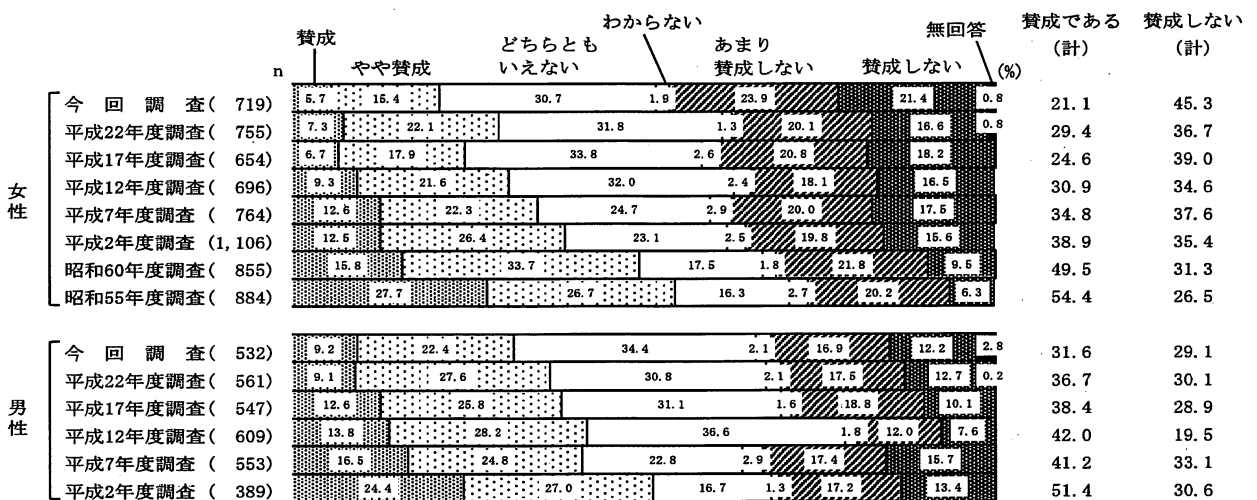
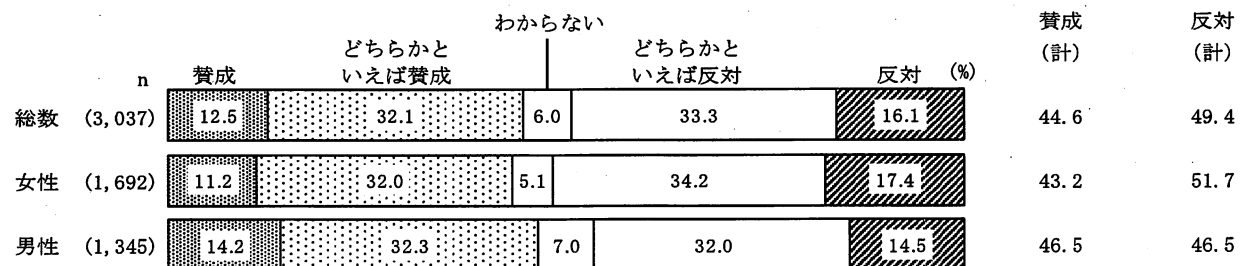


図3-4 参考：「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について（平成26年度内閣府調査）

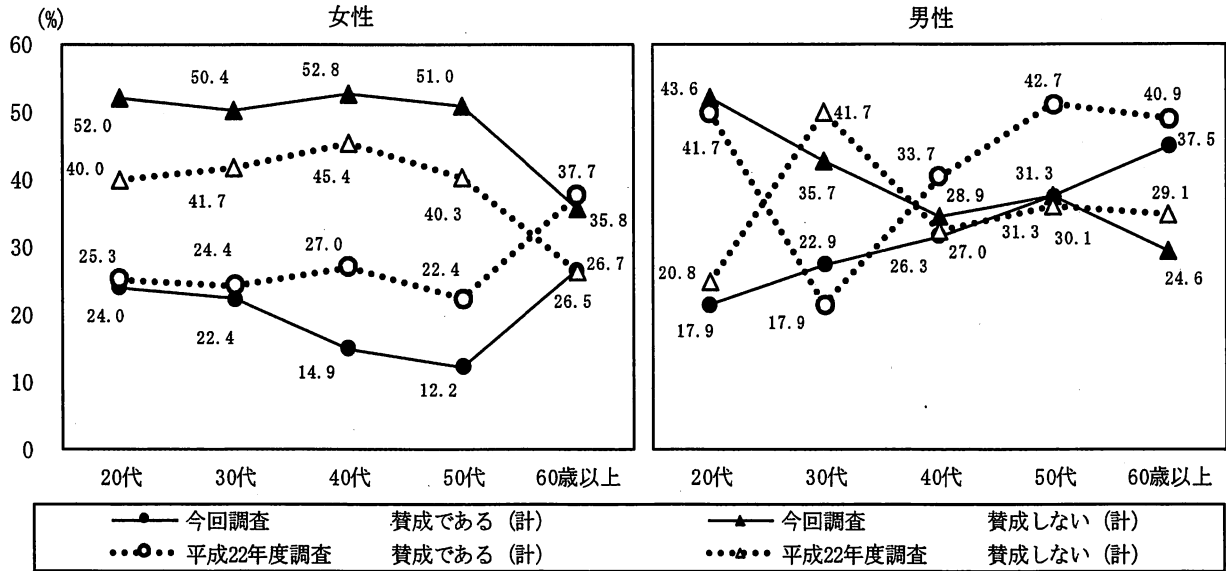


【平成22年度調査との年代別比較】

平成22年度調査結果と年代別に比較すると、女性では、全ての年代で『賛成しない（計）』が増加し、『賛成である（計）』が減少した。

男性では、20代で『賛成しない（計）』が22.8ポイント増加し、『賛成である（計）』が23.8ポイント減少した。

図3-5 「男は仕事、女は家庭」という考え方（平成22年度調査との年代別比較）



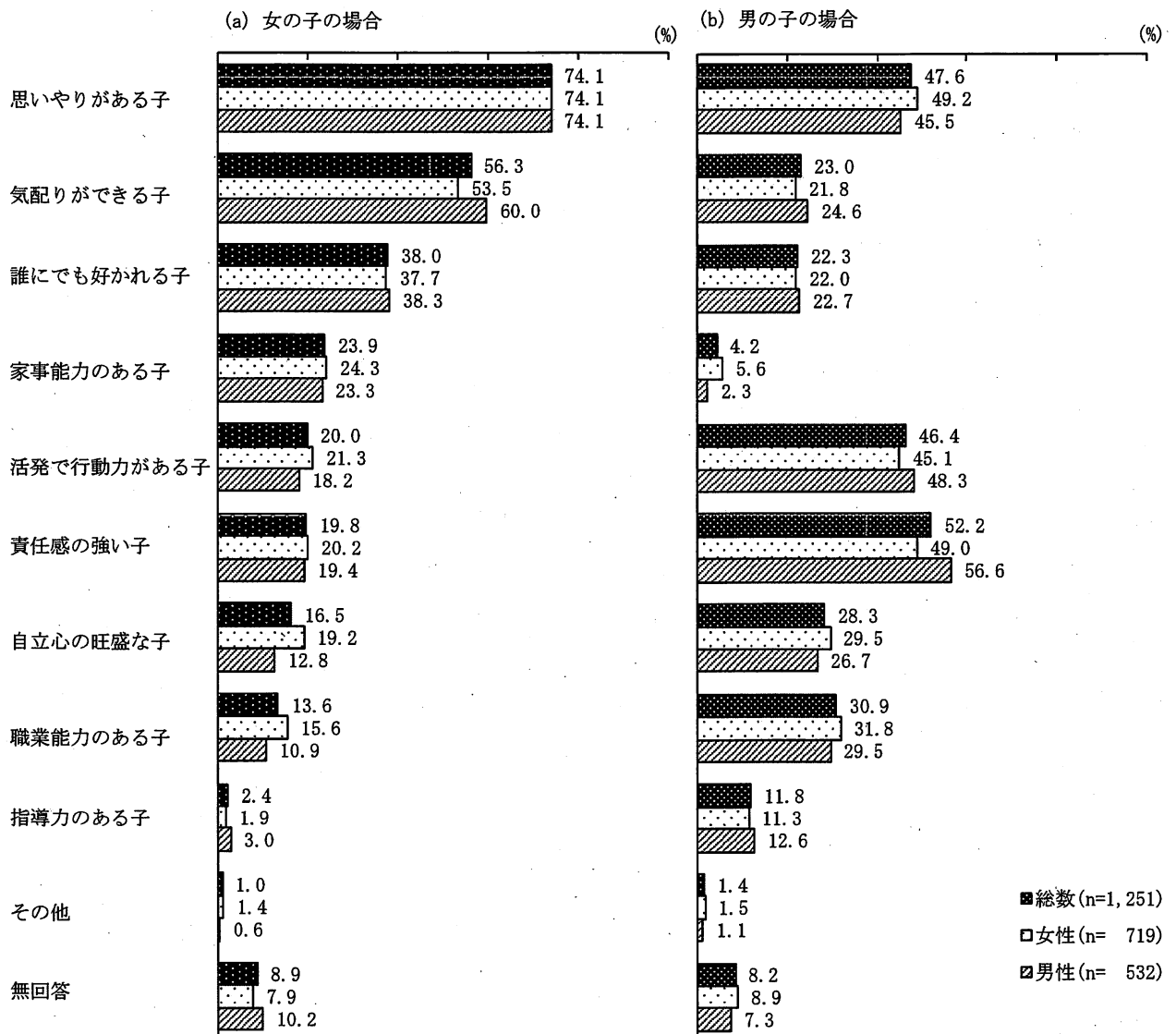
3 子どもの教育方針

問4 お子さんをどのように育てたい（育ってほしかった）と思いますか。お子さんがいらっしやらない方もいたと仮定して、それぞれ○を3つまで選んでください。

女の子の場合と男の子の場合を比較すると、女の子に対しては、女性・男性とも「思いやりがある子」が最も多く、7割を超えている。次いで「気配りができる子」が5割以上、「誰にでも好かれる子」が3割以上となっている。

男の子に対しては、女性では、「思いやりがある子」、「責任感の強い子」、「活発で行動力がある子」の順に多く、いずれも4割以上となっている。男性では、「責任感の強い子」が5割以上となり、次いで「活発で行動力がある子」、「思いやりがある子」が4割以上となっている。

図4-1 子どもの教育方針 項目別一覧 (性別)



子どもの教育方針

(a) 女の子の場合

【性別】

男女とも、「思いやりがある子」(女性・男性とも74.1%)が最も多く、次いで「気配りができる子」(女性53.5%、男性60.0%)、「誰にでも好かれる子」(女性37.7%、男性38.3%)の順となっている。

【地域別】

女性では、いずれの地域でも「思いやりがある子」が7割を超え、「気配りができる子」は5割を超えている。

男性では、「思いやりがある子」は能登北部(81.4%)で最も多くなっている。「気配りができる子」は石川中央(57.2%)を除き6割を超えている。

【年代別】

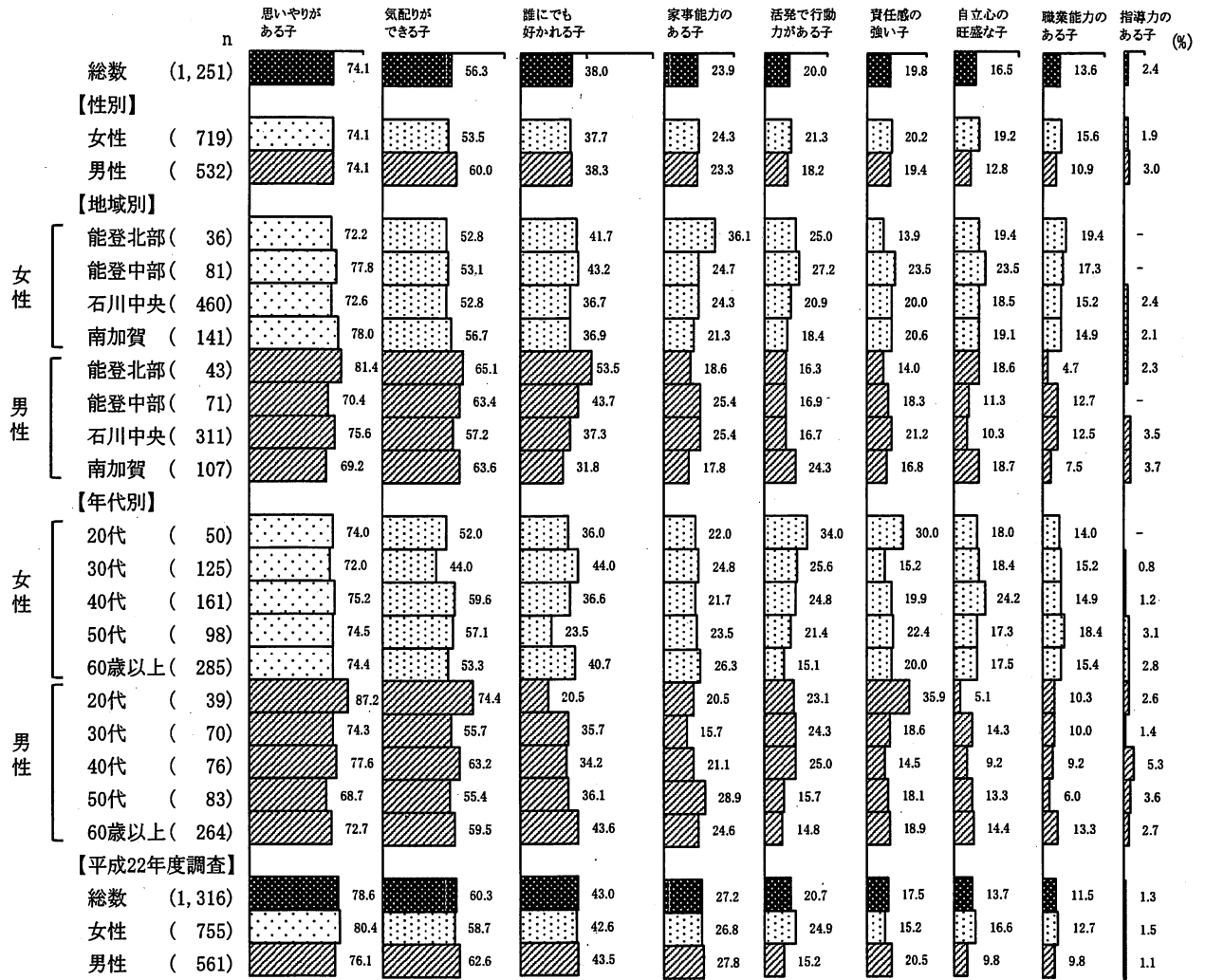
女性では、「思いやりがある子」は全ての年代で7割を超えている。

男性では、「思いやりがある子」は20代(87.2%)で最も多くなっている。

【平成22年度調査との比較】

前回同様、男女とも、「思いやりがある子」が最も多く、「気配りができる子」、「誰にでも好かれる子」の順となった。

図4-2 子どもの教育方針 (a) 女の子 (性別、地域別、年代別、平成22年度調査結果)



子どもの教育方針

(b) 男の子の場合

【性別】

女性では、「思いやりがある子」(49.2%)が最も多く、次いで「責任感の強い子」(49.0%)、「活発で行動力がある子」(45.1%)の順となっている。

男性では、「責任感の強い子」(56.6%)が最も多く、「活発で行動力がある子」(48.3%)、「思いやりがある子」(45.5%)の順となっている。

【地域別】

女性では、「責任感の強い子」は能登北部(63.9%)と能登中部(61.7%)で6割を超えている。

男性では、能登北部を除き「責任感の強い子」は5割を超え、石川中央(58.5%)が最も多くなっている。能登北部では「思いやりがある子」(55.8%)が最も多くなっている。

【年代別】

女性では、「責任感の強い子」、「活発で行動力がある子」は20代(60.0%)で最も多くなっている。

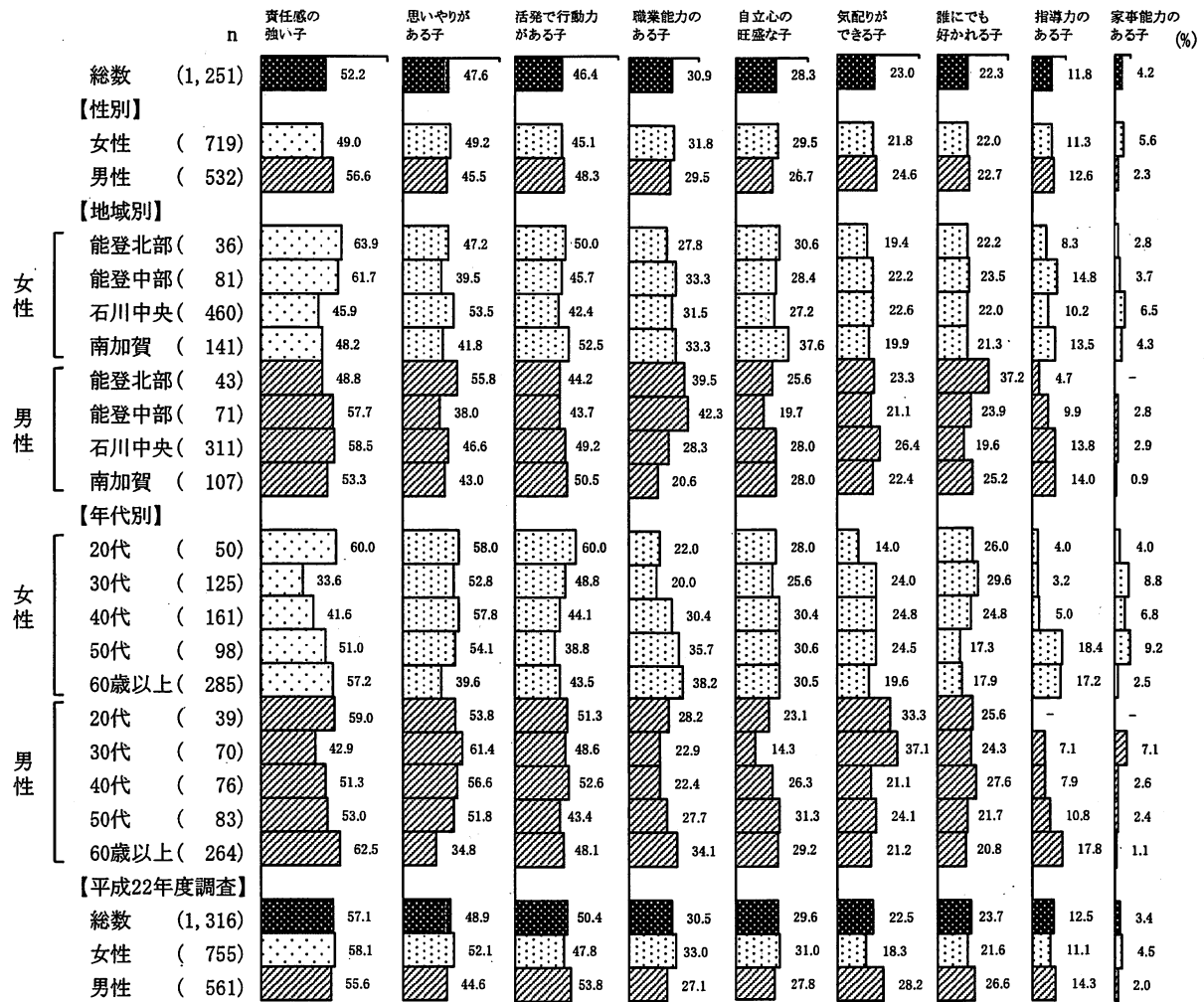
男性では、「責任感の強い子」は60歳以上で最も多くなっている。

【平成22年度調査との比較】

女性では、今回は「責任感の強い子」(58.1%)が最も多く、今回は「思いやりがある子」(49.2%)が最も多くなった。

男性では、前回同様「責任感の強い子」(前回55.6%、今回56.6%)が最も多くなった。

図4-3 子どもの教育方針 (b) 男の子 (性別、地域別、年代別、平成22年度調査結果)



4 自分の介護を誰に望むか

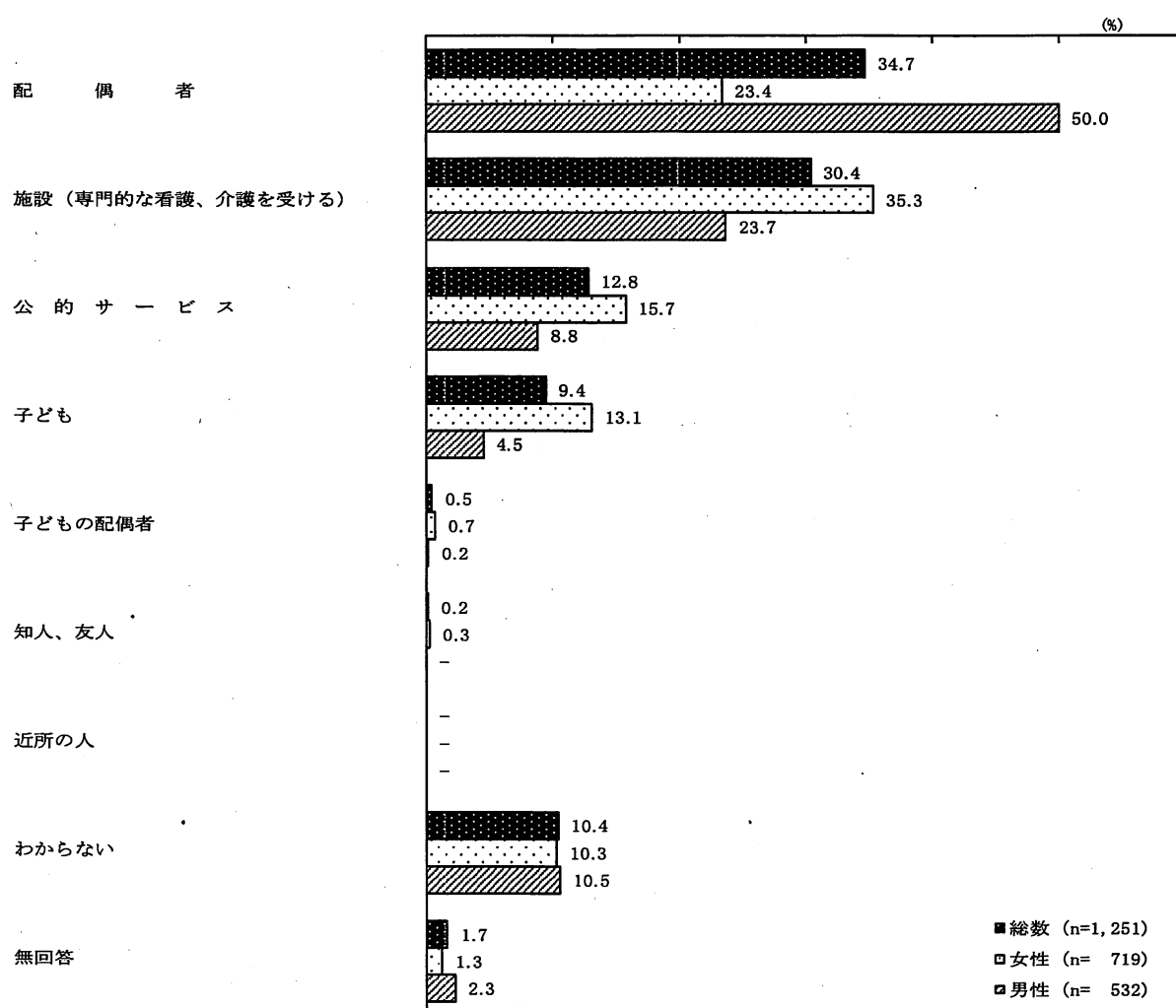
問5 将来あなたが病気や介護の必要な状態になった時、世話や介護は主にだれにしてほしいですか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

全体では「配偶者」が34.7%と最も多く、次いで「施設(専門的な看護、介護を受ける)」(30.4%)、「公的サービス」(12.8%)、「子ども」(9.4%)となっている。

女性では「施設」(35.3%)が最も多く、次いで「配偶者」(23.4%)、「公的サービス」(15.7%)、「子ども」(13.1%)となっている。

男性では、「配偶者」(50.0%)が半数を占め、次いで「施設」(23.7%)、「公的サービス」(8.8%)、「子ども」(4.5%)となっている。

図5-1 自分の介護を誰に望むか 項目別一覧(性別)



自分の介護を誰に望むか

【性別】

「配偶者」は男性の方が26.6ポイント多く、「施設」は11.6ポイント、「公的サービス」は6.9ポイント、「子ども」は8.6ポイント女性の方が多くなっている。

【地域別】

女性では、「施設」は能登中部（44.4%）と南加賀（41.1%）で4割を超えている。

男性では、「配偶者」は石川中央（51.1%）と能登中部（50.7%）で5割を超えている。

【年代別】

女性では、「配偶者」は20代（30.0%）と30代（30.4%）で最も多く、「施設」は40代（34.2%）、50代（40.8%）、60歳以上（38.6%）で最も多くなっている。

男性では、全年代で「配偶者」が最も多く、40代（53.9%）と60歳以上（54.9%）では半数を超えている。

【未既婚別】

女性では、「施設」は離死別（44.5%）が最も多くなっている。

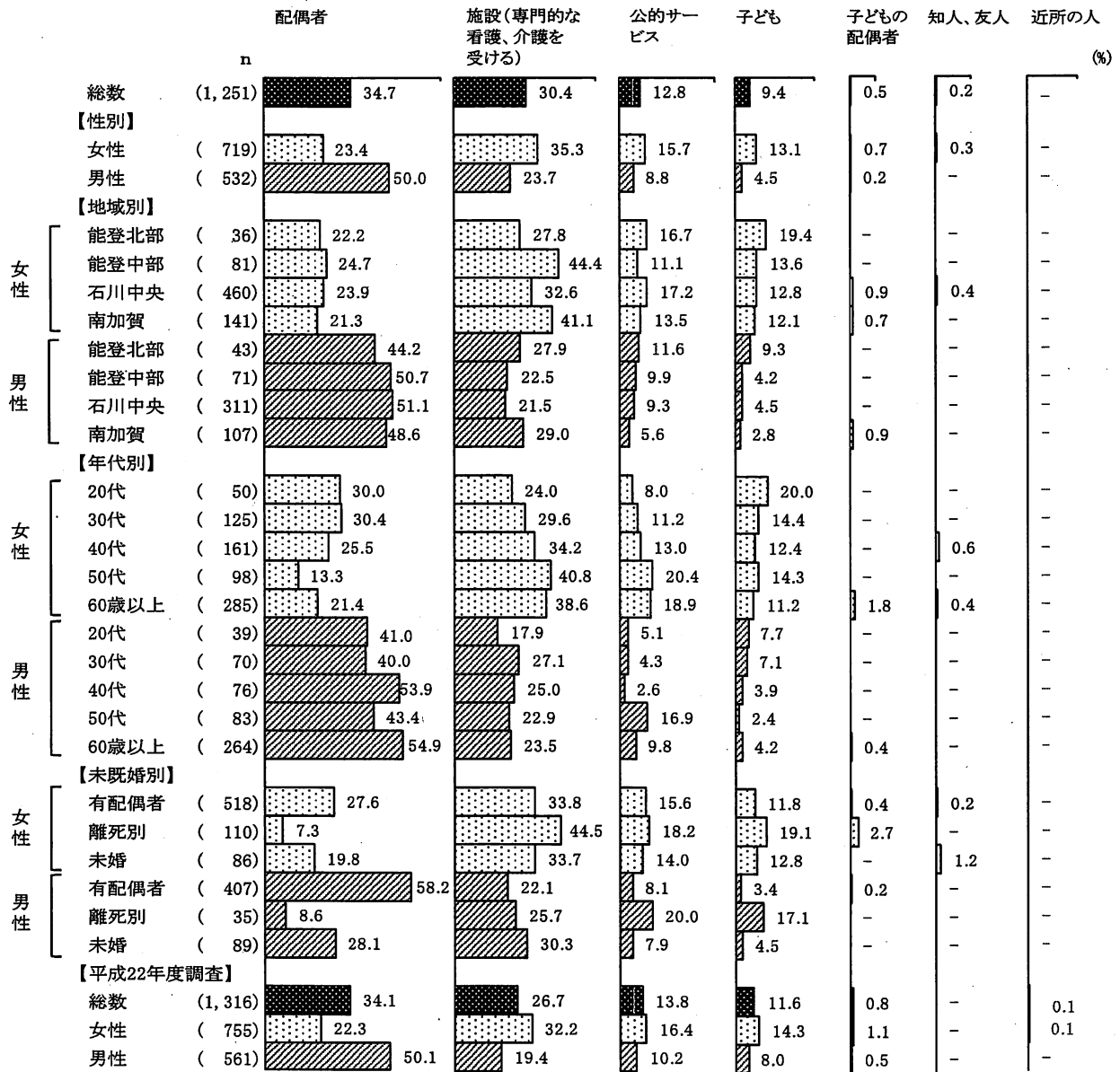
男性では、「配偶者」は有配偶者（58.2%）が最も多くなっている。

【平成22年度調査との比較】

女性では、「配偶者」は1.1ポイント、「施設」は3.1ポイント増加した。

男性では、「配偶者」は0.1ポイント減少し、「施設」は4.3ポイント増加した。

図5-2 自分の介護を誰に望むか (性別、地域別、年代別、未既婚別、平成22年度調査結果)



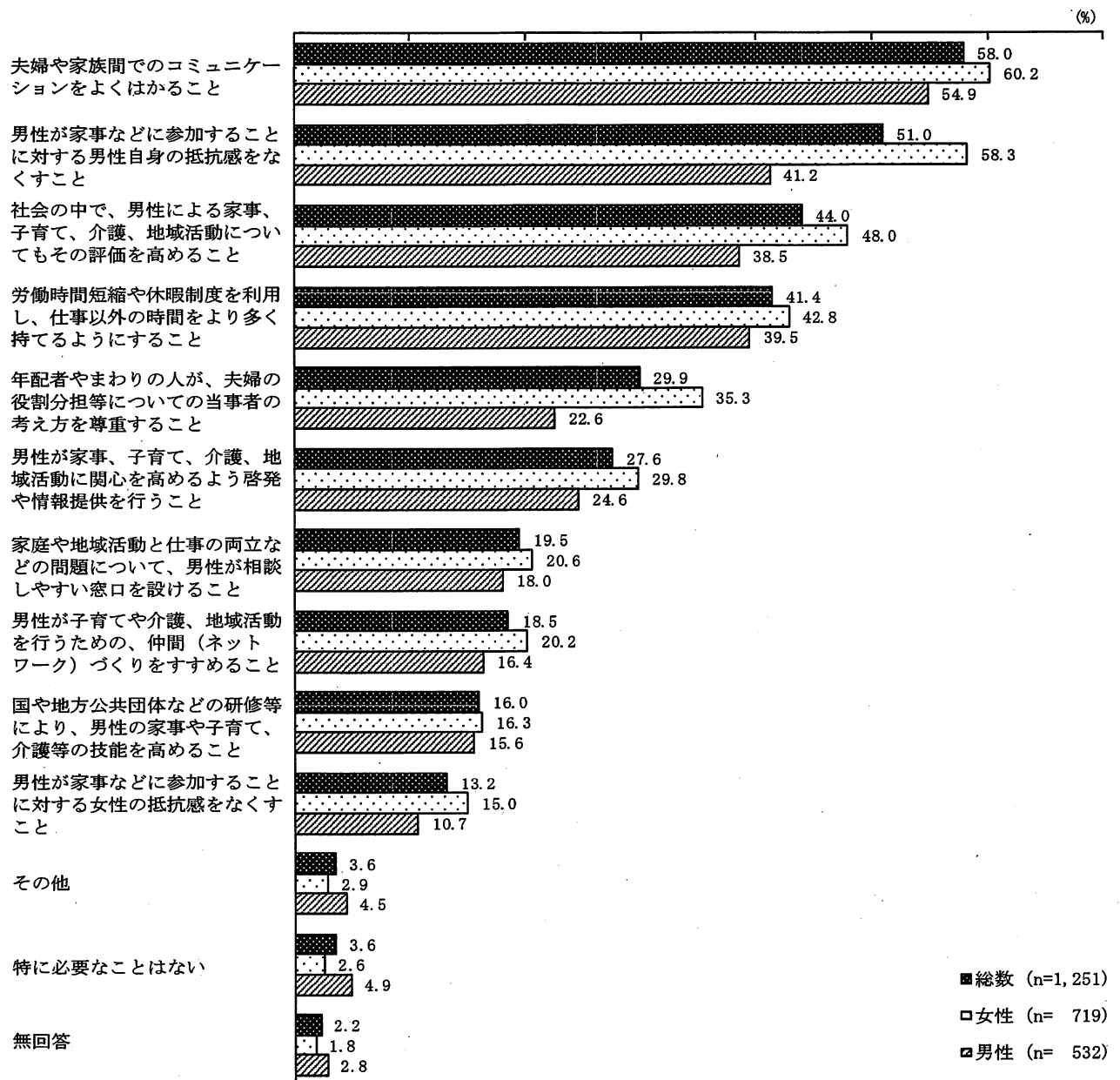
5 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと

問6 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(〇はいくつでも)

全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(58.0%)が最も多く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(51.0%)、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についてもその評価を高めること」(44.0%)、「労働時間短縮や休暇制度を利用し、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(41.1%)が続いている。

男女の比率の差は「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が最も大きく、女性の方が17.1ポイント多くなっている。

図6-1 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと 項目別一覧(性別)



男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと

【性別】

前頁参照。

【地域別】

女性では、「夫婦や家族観でのコミュニケーションをよくはかること」が能登北部（58.3%）、能登中部（59.3%）、南加賀（63.1%）で最も多く、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は石川中央（60.7%）で最も多くなっている。

男性では、いずれの地域でも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多くなっている。

【年代別】

女性では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」は20代（74.0%）、40代（62.7%）、60歳以上（62.8%）で最も多く、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は50代（63.3%）で最も多い。「社会の中で、男性による家事、子育て介護、地域活動についてもその評価を高めること」は30代（60.0%）で最も多くなっている。

男性では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」は全年代で最も多くなっている。

【本人の職業別】

女性では、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は勤め人（60.6%）と自営業・家族従業（56.1%）で最も多く、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」は無職（66.2%）で最も多くなっている。

男性では、いずれの層でも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多くなっている。

【共働きの有無別】

女性では、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は、共働きである人（59.8%）で最も多く、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」は、共働きでない人（69.8%）で最も多くなっている。

男性では、いずれの層でも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多くなっている。

【平成24年度内閣府調査との比較】

内閣府が平成24年10月に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」における「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと」についてたずねた調査結果と傾向を比較する。（但し、内閣府調査は「調査員による個別面接聴取法」で実施していることや、質問文・回答選択肢が異なること等から厳密な比較はできない。）

「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」は本県調査では女性の方が男性より3.3ポイント多くなっているが、内閣府調査では男性の方が女性より0.5ポイント多くなっている。

図6-2 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと

(性別、地域別、年代別、本人の職業別、共働きの有無別)

